

令和7年11月4日

大臣官房参事官(イノベーション)グループ

国土技術政策総合研究所

国土交通データプラットフォームの利活用促進に向けた 実証調査の公募(第2期)を開始します！ ～AI・データ駆動型エコシステム実現に向けた社会実験始動～

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」と連携し、国土交通データプラットフォームの更なる利活用促進に向けて、実証調査の参加者を募集することとしましたので、お知らせします。

本実証においては、国土交通データプラットフォームを介して参加主体が保有するデータを提供する【タイプ A(データ提供者)】、国土交通データプラットフォームよりデータを利用し、新たなサービスの創出を目指す【タイプ B(データ利用者)】および AI 技術の活用によるデータの価値創出・利活用促進を目指す【タイプ C(インフラ AI 共創パートナー)】の3つの公募タイプがあります。

詳細については、公募要領をご覧くださいとともに、オンライン説明会も開催予定です。

また公募開始にあわせて、利用者向け API と大規模言語モデル(LLM)をつなぐ MCP(Model Context Protocol)サーバの提供を開始します。

○ 公募概要

(1)応募資格:地方公共団体、民間企業等、大学・高等専門学校又は同附属試験研究機関や

その他公的研究開発機関他、一般社団法人、一般財団法人、公益社団法人又は公益財団法人

(2)募集期間:令和7年11月4日(火)～令和7年12月19日(金)

(3)公募内容:タイプA(データ提供者)、タイプB(データ利用者)およびタイプC(インフラ AI 共創パートナー)の3つのタイプを公募します。

詳細は別添公募要領および参考資料を参照して下さい。

○ 公募説明会

本公募に関し、令和7年11月17日(月)11時より、オンライン説明会を開催します。説明会に参加を希望される方は、11月14日(金)12時までに、以下の申込フォームよりご登録をお願いします。申し込みいただいたメールアドレスに、オンライン説明会の会議 URL を事務局より送付します。

<申込フォーム> <https://forms.office.com/r/p3Z7duy5Wh>

フォームにアクセスできない場合は、以下のとおりメールにてご連絡ください。

■件名:【参加希望】国土交通 DPF の利活用促進に向けた実証調査の公募(第2期)オンライン説明会

■本文:所属(会社名等)、部署、役職、氏名(ふりがな)、連絡先(電話番号、メールアドレス)

■送付先:mlitdata-rcv★aigid.jp

※「★」を「@」に置き換えた上で、送付願います。

※取得した個人情報は適切に管理し、必要な用途以外に利用しません。

(参考)

○国土交通データプラットフォーム <https://www.mlit-data.jp/>

○戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」

サブ課題:D:サイバー・フィジカル空間を融合するインフラデータベースの共通基盤の構築と活用

(研究開発責任者:東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授 本田 利器)

https://www.pwri.go.jp/jpn/research/sip/sub-assignment_d.html

○ MCP サーバ(MLIT DATA PLATFORM MCP Server)の提供開始

国土交通データプラットフォームは令和2年4月の公開以降、WEB 画面上で「操作する」GUI(Graphical User Interface)や他のシステムやアプリケーションと「連携する」API(Application Programming Interface)の提供、改良を行ってきました。

今般、従来の GUI や API で難しかった曖昧な指示や複雑な条件検索が可能となり、また専門的な知識や技術的な操作無しに「AI を用いて自然言語で検索・分析する」MCP(Model Context Protocol)サーバの提供を開始します。

詳細は以下のページを確認ください。

https://www.mlit-data.jp/#/Page?id=apps_mcp

<問合せ先>

(全般について)

大臣官房 参事官(イノベーション)グループ 西上、柴田、黛

代表:03(5253)8111(内線 22339、22338、22326)、直通:03(5253)8120

(国土交通データプラットフォームのシステムについて)

国土技術政策総合研究所 社会資本マネジメント研究センター 澤、光谷

代表:029(864)2211(内線 3812、3847)、直通:029(864)4916

国土交通データプラットフォーム（DPF）の利活用促進に向けた実証調査（第2期） 公募要領

1. 公募概要

タイプA（データ提供者）、タイプB（データ利用者）およびタイプC（インフラ AI 共創パートナー）の3つのタイプを公募する。

（1）実証調査の実施主体

- ・国土交通省大臣官房参事官(イノベーション)グループ
- ・戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」
サブ課題:D:サイバー・フィジカル空間を融合するインフラデータベースの共通基盤の構築と活用
(研究開発責任者:東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授 本田 利器)
- ・公募参加者（(3)に詳述）

（2）実証調査の期間

本実証調査のスケジュールは、概ね以下のとおり想定している。ただし、変更することがありうる。

- ・2025年11月～12月 実証調査への参加者公募
- ・2026年1月 実証調査開始
- ・2027年2月末 成果とりまとめ、公表

※成果公表は2027年2月末を予定しているが、進捗に応じて適宜国土交通データプラットフォームへ成果を公表する。成果公表の時期に意見交換会や実証内容の発表の場を設ける。

※成果とりまとめの内容を踏まえ、事務局との協議の上、取組は成果とりまとめ後も引き続き実証を継続する場合がある。

（3）応募資格（公募参加者主体）

- ・本実証調査に参加する主体は、地方公共団体、民間企業等、大学・高等専門学校又は同附属試験研究機関やその他公的研究開発機関他、一般社団法人、一般財団法人、公益社団法人又は公益財団法人とする。
- ・複数の団体・法人による共同応募も可とする。
- ・応募者は暴力団や反社会的勢力等の関係者に該当しないこと。自己・自社もしくは第三者の不正な利益を図るまたは損害を加える、脅迫的な言動や暴力的な行為を行なう者でないこと。
- ・公募内容は今後の国土交通DPFの発展に資するものとし、公序良俗に反する取組等は認めない。

（4）費用負担

- ・実証調査に係る一切の費用は、参加者による負担とする。

(5) 事務局

○国土交通省大臣官房参事官(イノベーション)グループ

(委託事業者：一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会(AIGID))

メールアドレス：mlitdata-rcv@aigid.jp

(6) その他

- ・複数の公募タイプへの併願も可能とする。
- ・公募要領により難しい場合は、事務局と協議の上、調整を行うものとする。

2. 募集内容：タイプA（データ提供者）

(1) 目的

- ・国土交通省が保有するデータ・システムに限らず、様々な主体が参画し、多様なデータ・システムとの円滑な連携拡充を目的とし、相互運用性や効率的に連携する仕組みを確立するため、実証調査を実施する。
- ・分野・組織のリポジトリやデータベースにおけるデータと連携・接続し、国土交通 DPF 上で統合的・横断的なメタデータ検索・可視化・データ取得の実現を目指す。

(2) 実証内容

- ・公募参加者は国土交通 DPF へのデータ提供を行う。
- ・実証の過程において生じる様々な不具合等については、連携の仕様や機能の改善を進めるため、協力を求める場合がある。この場合は、フィードバックや必要な協力を行うこと。
- ・提供データについては、連携後も継続的な更新を実施することを基本とする。更新頻度や具体的な運用方法については関係者間で協議の上決定する。
- ・実証期間中に国土交通 DPF 上でのデータ公開に向けた準備が整わなかった場合は、事務局と協議の上、継続の可否を含め最終的な対応方針を決定する。

(3) 国土交通 DPF へのデータ提供方法

- ・国土交通 DPF へ提供するデータは、「国土交通データプラットフォームデータ連携標準仕様（案）」に準拠することを原則とする。
- ・データ提供方法については、以下に示す3つの接続方式がある。
 - ① 国土交通データプラットフォームデータ連携標準仕様（案）に基づいた連携 API 等によるシステム連携
 - ② G 空間情報センターへのデータ登録を介した連携
 - ③ 国土交通 DPF が提供する連携管理アプリによる連携
- ・詳細については、参考資料1および以下を参照すること。
 - 国土交通データプラットフォームデータ連携標準仕様（案）、
国土交通データプラットフォーム 連携者向け情報
<https://www.mlit-data.jp/#/CollaboratorInfo>

- G空間情報センター（運営：一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会）：

<https://front.geospatial.jp/>

- ・実証期間内において、接続に必要な要件や仕様を事務局と協議のうえ、最適な接続方式を選定する。上記により難しい場合は、実証期間内において事務局と協議の上進める。

（４） クローズドデータ・有償データの取り扱いについて

- ・国土交通省の施策の高度化や、産学官連携によるイノベーションの創出を推進する観点から、クローズドデータや有償データにおいては、一部の諸元情報や属性情報など公開可能な範囲を選定したうえで、国土交通 DPF に登録・公開を行うものとする。

3. 募集内容：タイプB（データ利用者）

（１） 目的

- ・国土交通 DPF が提供する機能を活用してデータを利用し、新たなアプリケーションやサービスを創出することを目的とする。

（２） 実証内容

- ・公募参加者は国土交通 DPF が提供する機能を活用した業務効率化や高度化などのユースケースの創出を行う。国土交通 DPF が提供する機能として以下がある。
 - 利用者向け API
https://www.mlit-data.jp/api_docs/
 - GIS 利用者向け API（GIS Web サービス）
https://www.mlit-data.jp/#/Page?id=apps_gis_web
 - MLIT DATA PLATFORM MCP Server
https://www.mlit-data.jp/#/Page?id=apps_mcp
- ・上記の他に、本実証調査の活性化を目的に、公募参加者の保有する機能・環境を他の参加者に無償提供されたものを利用することも可能とする。具体については、公募参加者の提案を踏まえ、事務局と協議の上、決定する。
- ・プロトタイプまたは構想段階の取り組みでも応募可能とする。ただし、国土交通 DPF 上に成果を掲載する際にはアプリケーションやサービスが社会実装可能な段階であることを前提とする。
- ・アプリケーションやサービスの提供形態（有償・無償）については制限を設けない。
- ・インフラ分野への AI 技術活用に向けた取り組みの場合には、国土交通 DPF が提供する MCP サーバを積極的に活用することとし、MCP サーバの機能拡充やその他大規模言語モデル（LLM）等の利用も推奨する。
- ・上記により難しい場合は、実証期間内において事務局と協議の上進める。
- ・今後、国土交通 DPF に掲載予定のデータは参考資料 2 のとおり。
- ・実証内容については、国土交通 DPF に掲載するとともに、国土交通省等の広報媒体で紹介する等、国土交通 DPF 利活用推進に資するための取り組みに活用することがある。
- ・実証期間中に国土交通 DPF 上での取組成果の公開に向けた準備が整わなかった場合は、事務

局と協議の上、継続の可否を含め最終的な対応方針を決定する。

4. 募集内容：タイプC（インフラ AI 共創パートナー）

（1） 目的

- ・ 昨今の AI 技術の進展を踏まえ、インフラ分野に蓄積された多様なデータをもとに、AI 利活用の可能性を整理し知見を共有しながら、AI 学習用データの整備や AI アプリケーション開発等の社会的価値創出につながる取組について関心のあるコミュニティを組成し、エコシステムの構築実現に向けた議論・実証を行うことを目的とする。

（2） 実証内容

- ・ 公募参加者が保有するインフラ整備・管理に関連するデータ（画像・映像・センサーデータ等）を相互に共有し、円滑なデータ共有・AI 活用が行える枠組みや開発環境等について検討する。
- ・ AI データの「協調領域（広く共有・公開することで社会的価値が高まる部分）」および「競争領域（事業者等が独自性や競争領域を維持するために権利を保持する部分）」の分類に向けて、参加者全体で分類基準を整理し、各参加者が実証にて共有したデータについて個別に分類を行い、原則としてメタデータの公開は行うものとする。
- ・ 協調領域に該当するデータは国土交通 DPF へ掲載し、データ提供者の競争力や事業利益を損なうことなく、社会的価値の最大化の両立を図る。なお、競争領域に該当する事項についても実証調査の範囲内で検討を行うため、実証調査以外での不適切な利用を防止する観点から、タイプCの参加者間で協議の上、必要に応じて秘密保持契約を締結する。
- ・ 上記により難しい場合は、実証期間内において事務局と協議の上進める。
- ・ 実証の過程において、ヒアリングやフィードバック、改善提案に協力を行うこと。

（3） 応募要件

- ・ 「1.（3）応募資格」に加え、以下のいずれかの要件を満たす主体を対象とする。
 - インフラ整備・管理に関連する画像・映像・センサーデータ等の AI 技術による活用が期待されるデータを保有している者
 - 参加者が保有するデータの特性や活用可能性について、他の参加者への情報提供や技術開発に協力できる者
 - 実証の中で「協調領域」に該当すると整理されたデータまたはそのメタデータについて、国土交通 DPF への掲載に向けた整備・提供に協力できる者
 - データを AI 技術により活用する知識・経験および環境を保有する者

5. 応募手続き（タイプA・B・C 共通）

（1） 応募者

- ・ 「1.（3）応募資格」に示す応募資格を持つ者が行うこと。

(2) 募集期間

2025 年 11 月 4 日（火） ～ 2025 年 12 月 19 日（金）

(3) 応募に必要な資料

- ・別紙 1「参加申請書」を作成の上、「6.（1）応募資料の提出先」へ提出すること。提出の締切は、2025 年 12 月 19 日（金）17 時必着とする。
- ・必要に応じて補足資料を添付すること。

(4) 応募にあたっての注意

- ・ 国土交通データプラットフォーム利用規約に同意する。
 - 利用規約 (<https://www.mlit-data.jp/assets/policy/国土交通データプラットフォーム利用規約.pdf>)
 - API 機能利用規約 (<https://www.mlit-data.jp/assets/policy/国土交通データプラットフォーム API 機能利用規約.pdf>)
- ・ 実証調査の効果把握や得られた成果のガイドライン等への反映、効果検証等のため、ヒアリングや書面調査、訪問調査、その他報告・情報共有等を求める場合、協力すること。
- ・ 実現可能性や提供データ等に関する確認を行い、応募書類の追記・修正等をお願いする場合がある。
- ・ 公募要領により難しい場合は、事務局と協議の上、調整を行うものとする。

(5) 応募資料の取り扱い

- ・ 提出された応募資料は、当該応募者に無断で二次的に使用することはない。
- ・ 提出された応募資料は、「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」（平成 11 年 5 月 14 日法律第 42 号）において、行政機関が取得した文書について、開示請求者からの開示請求があった場合は、当該企業等の権利や競争上の地位等を害するおそれがないものについては、開示対象となる場合がある。

6. 応募資料提出先・公募要領に関する連絡

(1) 応募資料の提出先

本公募への応募にあたっては、別紙 1「参加申請書」を作成の上、以下の連絡先宛てに電子メールで送付すること。提出の締切は、2025 年 12 月 19 日（金）17 時必着とする。

- ・ 委託事業者：一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)
- ・ メールアドレス：mlitdata-rcv@aigid.jp
- ・ メールの件名は「国土交通 DPF 実証調査 応募資料提出（応募者の名称）」とすること。
- ・ ファイル名は「国土交通 DPF 実証調査_参加申請書_応募者の名称.pdf」とすること。
- ・ 応募者の名称の例：株式会社●●、●●県●●市、●●大学

(2) 公募要領に関する連絡

2025 年 月 日

国土交通データプラットフォームの利活用促進に向けた実証調査
参加申請書

国土交通データプラットフォームの利活用促進に向けた実証調査への参加を申請します。

1. 共通事項

参加主体 (地方公共団体名・法人名)		
ご担当者	(ふりがな) お名前	
	部署名	
	電話番号	
	メールアドレス	

Q1. 今回、参加にあたって該当する項目に「●」を付けてください ※複数選択可	
	タイプ A (データ提供者)
	タイプ B (データ利用者)
	タイプ C (インフラ A I 共創パートナー)
Q2. 想定するデータ提供・データ利用・共有する AI データについて、概要をご記入ください。	
Q3. 補足資料があれば、添付してください。参照 URL がある場合は、以下に URL をご記入ください。	
	補足資料を添付
	参照 URL : ● https:// ●

- 参加申請書は PDF 形式で保存し、ファイル名「国土交通 DPF 実証調査_参加申請書_応募者の名称.pdf」としてください。
応募者の名称の例：株式会社●●、●●県●●市、●●大学
- 参加申請書の記載内容を確認するため、ご担当者宛てに電話あるいはメールにて問合せをする場合があります。

2. タイプA(データ提供者)参加申請者 記入要項

タイプA (データ提供者) に参加申請される方は、以下をご記入ください。

Q1. 関連する研究プロジェクトや行政施策・委託業務があれば「●」をつけてください。	
	戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」に関連する
	サブ課題： 具体的なサブ課題を記載してください
	戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」以外の課題に関連する
	課題およびサブ課題： 具体的な課題およびサブ課題を記載してください
	その他： 具体的な内容を記載してください
	特になし
Q2. データ提供方法について、現段階で想定しているものに「●」をつけてください。	
	国土交通データプラットフォームデータ連携標準仕様（案）に基づいた連携API等によるシステム連携
	G空間情報センターへのデータ登録を介した連携
	国土交通 DPF が提供する連携管理アプリによる連携
	上記以外： 具体的な方法を記載してください
	今後検討する
Q3. 提供データについて、当てはまるものに「●」をつけてください。	
	提供データの概要が決まっている。
	データ仕様は概ね決定しているが、本実証にて国土交通データプラットフォームデータ連携標準仕様（案）との調整が必要である。 (データ仕様書やAPI仕様書などデータの項目や形式を記載した文書がある場合は申請書提出時に添付してください。ウェブサイトを確認できる場合は、備考欄にURLをご記入ください。)
	データ仕様が概ね決定しており、国土交通データプラットフォームデータ連携標準仕様（案）とも合致している。 (データ仕様書やAPI仕様書などデータの項目や形式を記載した文書がある場合は申請書提出時に添付してください。ウェブサイトを確認できる場合は、備考欄にURLをご記入ください。)
	サンプルデータや既に公開しているデータがある。 (以下に該当するものがあれば、本申請書提出時に添付してください。 ☐ データ仕様書やAPI仕様書（データの項目や形式を記載した文書） ☐ サンプルデータまたは既に公開しているデータ ※ウェブサイトを確認できる場合は、備考欄にURLをご記入ください。)
	国土交通 DPF への掲載に際し、データの公開権限やライセンスについて、関係者との調整・確認が必要な事項がある。 (詳細を備考欄にご記入ください)

備考欄：

Q4. 提供データを国土交通 DPF の利用者がメタデータ検索・可視化・データ取得するために、国土交通 DPF の機能向上や改良を期待することがあれば、以下にご記入ください。

Q5. タイプ A 参加にあたり、質問や確認したい事項があれば、以下にご記入ください。

3. タイプ B(データ利用者)参加申請者 記入要項

タイプ B (データ利用者) に参加申請される方は、以下をご記入ください。

Q1. 関連する研究プロジェクトや行政施策・委託業務があれば「●」をつけてください。	
	戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」に関連する
	サブ課題： 具体的なサブ課題を記載してください
	戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」以外の課題に関連する
	課題およびサブ課題： 具体的な課題およびサブ課題を記載してください
	その他： 具体的な内容を記載してください
	特になし
Q2. 現段階で、利用を想定するデータに「●」をつけてください。	
現在、国土交通 DPF と連携しているデータカタログ	
	電子納品保管管理システム
	高速道路会社の工事発注図面データ
	工事实績情報（コリンズデータ）
	社会資本情報
	国土数値情報
	全国幹線旅客純流動調査
	FF-Data（訪日外国人流動データ）
	全国道路・街路交通情勢調査一般交通量調査（道路交通センサス）
	MMS による三次元点群データ等
	3D 都市モデル（PLATEAU）
	水文水質データベース
	サイバーポート（港湾インフラ分野）
	インフラみらいマップ
	DiMAPS
	自然災害伝承碑
	基盤的防災情報流通ネットワーク（SIP4D）
	東京都 ICT 活用工事データ
	静岡県航空レーザ点群
	広島県インフラマネジメント基盤（DoboX）
	熊本県施設管理データベース
	全国道路施設点検データベース
	国土地盤情報データベース
	地方公共団体の工事データ（My City Construction）
	海洋状況表示システム（海しる）
	GTFS データリポジトリ

	重要文化財点群データ
	災害緊急撮影（斜め写真）
	都市 QOL データ
	行政区域データ
	統計データ（人口・世帯）
今後、国土交通 DPF と新規連携・拡充予定のデータ（2026 年 3 月予定）	
	仙台都市圏パーソントリップ調査
	OD 交通量データ
	歩行空間ネットワークデータ
	国土数値情報（中学校区、小学校区、土砂災害警戒区域、駅別乗降者数、地価公示、都道府県地価調査、高速道路時系列、緊急輸送道路、鉄道、鉄道時系列、大規模盛土造成地、砂防指定地、高速バス停留所、土地利用 3 次メッシュ）
	電子納品保管管理システム（J-Landxml）
SIP の取り組みから提供するデータ・アプリケーション	
	洪水浸水確率ハザードマップ生成アプリ
	疲労・劣化解析デジタルツイン
	インフラ構造物の点検情報管理システム「InfraWalk」
	空間経済分析の実践基盤の確立
上記に掲載されているデータ以外で、使用予定のデータや今後国土交通 DPF での連携を期待するデータがあれば、以下に記入してください。	
Q3. 国土交通 DPF が提供する機能のうち、利用を想定するものに「●」をつけてください。	
	利用者向け API
	GIS 利用者向け API（GIS Web サービス）
	MLIT DATA PLATFORM MCP Server
Q4. タイプ B 参加にあたり、質問や確認したい事項があれば、以下にご記入ください。	

4. タイプC(インフラ AI 共創パートナー)参加申請者 記入要項

タイプCに参加される方は以下をご記入ください

Q1. 関連する研究プロジェクトや行政施策・委託業務があれば「●」をつけてください。	
	戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」に関連する
	サブ課題：具体的なサブ課題を記載してください
	戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」以外の課題に関連する
	課題およびサブ課題：具体的な課題およびサブ課題を記載してください
	その他：具体的な内容を記載してください
	特になし
Q2. どのようなAI 学習用データ整備やAI アプリケーション開発等を検討されていますか。その概要を以下にご記入ください。	
Q3. タイプCの枠組みにおいて、参加者間で議論したいテーマや意見交換を希望される事項があれば、以下にご記載ください。	
Q4. タイプC参加にあたり、質問や確認したい事項があれば以下にご記入ください。	

2025 年 月 日

質問票

団体・法人名	
担当者氏名	(ふりがな)
連絡先 (電話番号)	
(メールアドレス)	

「公募要領」について、次のとおり質問事項を提出します。

	タイプ A (データ提供者)
	タイプ B (データ利用者)
	タイプ C (インフラ A I 共創パートナー)
	その他

※上記該当する項目に「●」を付けてください

質問事項：

1. 質問は、本様式 1 枚につき 1 問とし、簡潔に記載してください。必要に応じて補足資料を別途添付してください。
質問票は PDF 形式で保存し、ファイル名「国土交通 DPF 実証調査_質問票_問合せ者の名称.pdf」としてください。
問合せ者の名称の例：株式会社●●、●●県●●市、●●大学
2. 質問の趣旨を確認するため、担当者あてに電話あるいはメールにて問合せをする場合があります。
3. 回答は、随時行うとともに、募集を受ける上で広く周知した方が良いと判断されるものは、国土交通 DPF に掲載します。

国土交通データプラットフォームの 利活用促進に向けた実証調査（第2期）

公募要領 参考資料

国土交通データプラットフォームの利活用促進に向けた実証調査

国土交通データプラットフォームの利活用促進に向けた実証調査の公募（第2期）を開始します！

本実証調査は、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」と連携しています



国土交通省



SIP

戦略的イノベーション創造プログラム

データ利活用によるDX推進 産官学民の協創・イノベーション

➤ 国土交通DPFの整備と連携拡大

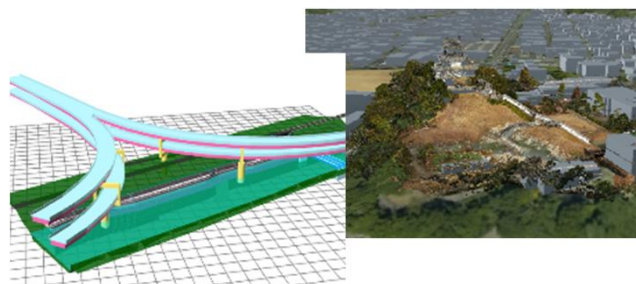
国交省等が保有する29データ・システムと連携し302万件以上のデータが検索可能

➤ 多様なデータ形式への対応

図面・BIM/CIM・点群など約100万ファイルが閲覧・DL可能な環境を整備

➤ 協創による社会実装の加速

産学官民が連携し、国土交通DPFを活用したDX・イノベーションを推進



分野・組織を横断した データ連携基盤の構築

➤ 多様な主体の参画促進

民間・自治体・研究機関等が保有・作成するインフラ関連データやシミュレーション結果を掲載
データ登録・利用が円滑に行える環境を整備

➤ 国土交通DPFの活用

国土交通DPFを基盤として、分野・組織を越えたデータ連携を実現



AI活用による社会的価値と 連携の可能性を追求

➤ 第1期の成果を土台に、次フェーズへ

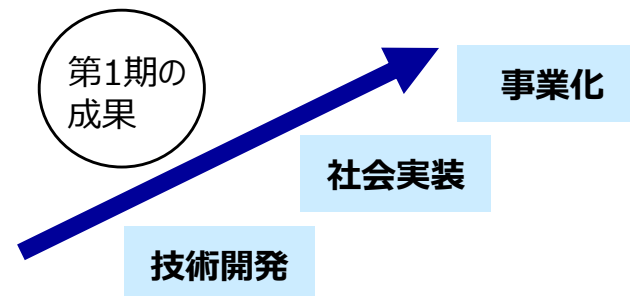
これまでの実証成果を踏まえ、社会実装に向けた取り組みを強化

➤ AI活用による新たな可能性の探求

先端技術を活用、データ利活用の可能性を実証

➤ 持続的な連携基盤の構築

国土交通DPFを活用し、データ提供者・利用者双方にとって有益なデータ流通の仕組みを構築



募集内容

募集タイプは「データ提供」、「データ利用」、「AI技術活用」の3種類

募集タイプ	実施内容	公募参加にあたっての条件 (一部のみ記載※)	提供データの取り扱い	アプリケーション・サービスの取り扱い
A データ提供者	参加者が保有するデータ・システムと国土交通DPFを接続し、国土交通DPFへデータ提供 ※接続方法は協議の上決定	データ提供後、継続的な更新を実施すること	国土交通DPF上でメタデータ検索・可視化・データ取得可能とする	—
B データ利用者	国土交通DPFが提供する機能を活用したアプリケーションやサービスの創出	利用者向けAPI、GIS利用者向けAPI等の国土交通DPFが提供する機能を活用すること	—	- 国土交通DPFにアプリケーションやサービスの紹介ページを掲載 - アプリケーションやサービスの提供形態（有償・無償）については制限を設けない
	AI技術を活用する場合 インフラ分野へのAI技術活用に向けたアプリケーションやサービスの創出	MLIT DATAPLATFORM MCP Server等のAI技術を活用すること		
C インフラAI共創パートナー	インフラ整備・管理に関連するデータを相互に共有・AI活用が行える枠組みや開発環境等について検討（協調領域と競争領域を整理含む）	- インフラ整備・管理に関連するデータを保有し、保有データの特性等を参加者間で情報共有すること - データをAI技術により活用する知識・経験および環境を保有すること 等	協調領域に該当すると整理されたデータまたはそのメタデータは、国土交通DPFに掲載する	—

- ✓ 実証調査に係る一切の費用は、参加者による負担とする
- ✓ 複数の公募タイプへの併願も可能とする
- ✓ 公募要領により難しい場合は、事務局と協議の上、調整を行うものとする

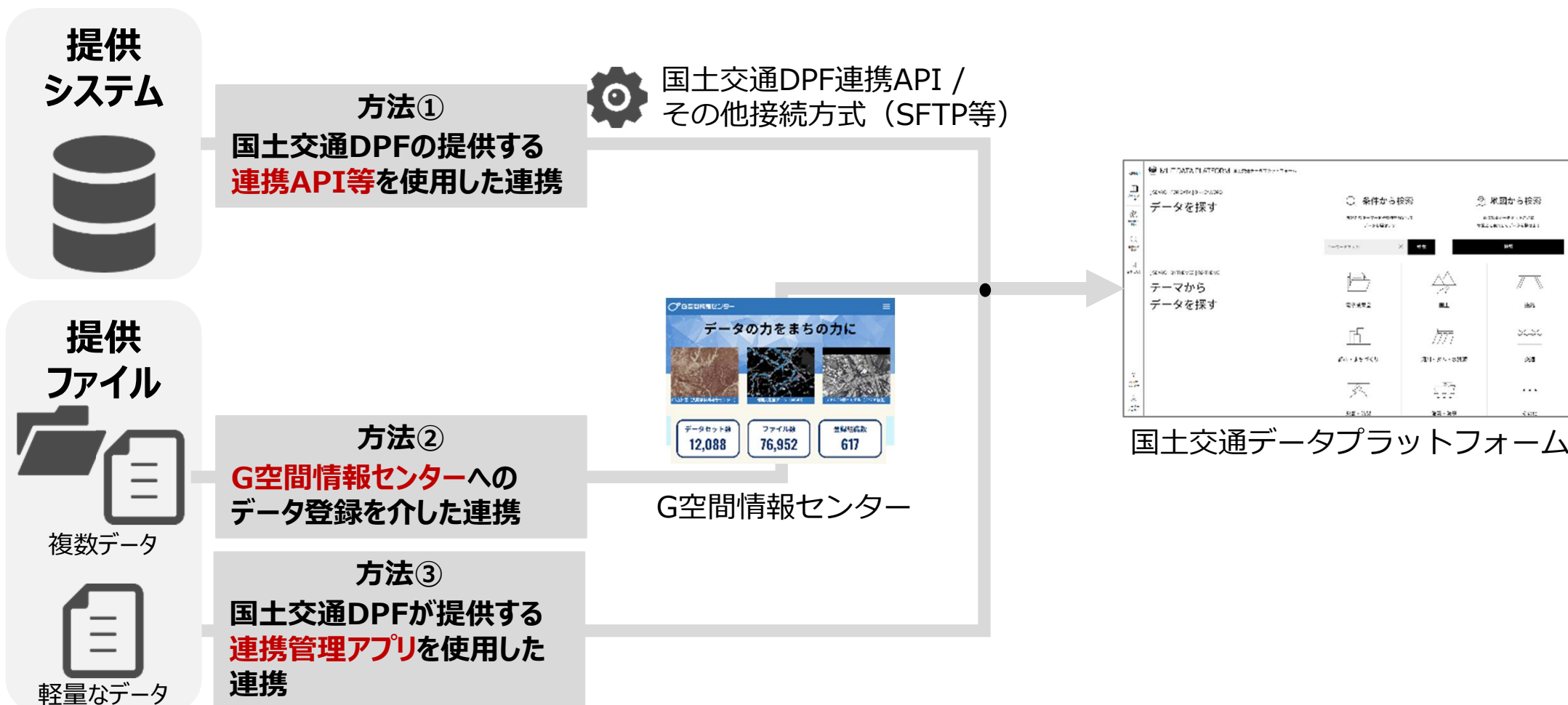
※詳細は公募要領を参照すること

タイプA(データ提供者) 国土交通DPFへの接続方法

タイプAデータ提供イメージ

実証期間内において、接続に必要な要件や仕様を事務局と協議のうえ、最適な接続方式を選定する。

- ・ システムを保有する参加者は、国土交通DPFが提供する連携API等を使用してデータ連携
- ・ データを簡易に提供したい参加者は、G空間情報センターや連携管理アプリを利用して連携
- ・ これらにより難しい場合は、実証期間内において事務局と協議の上進める



タイプB(データ利用者) 取組成果の広報

タイプB成果の外部発信・公表イメージ

- 作成したアプリケーションやサービスの紹介にとどまらず、現場における工夫や実践的な知見を含めて広く発信を行う。
- 技術的な価値のみならず、組織としての取り組み姿勢や強みを対外的に示す機会となる。



コンテンツページでの発信内容

- 公募で開発された**アプリの機能・特徴・活用シーン**を紹介
 - ✓ アプリの目的・どんな課題を解決するか
 - ✓ 国土交通DPFをどう活用したか・技術的なポイント
- 開発アプリを**“作った人”・“使っている人”**にインタビュー
 - ✓ 現場での課題・工夫・想いに焦点

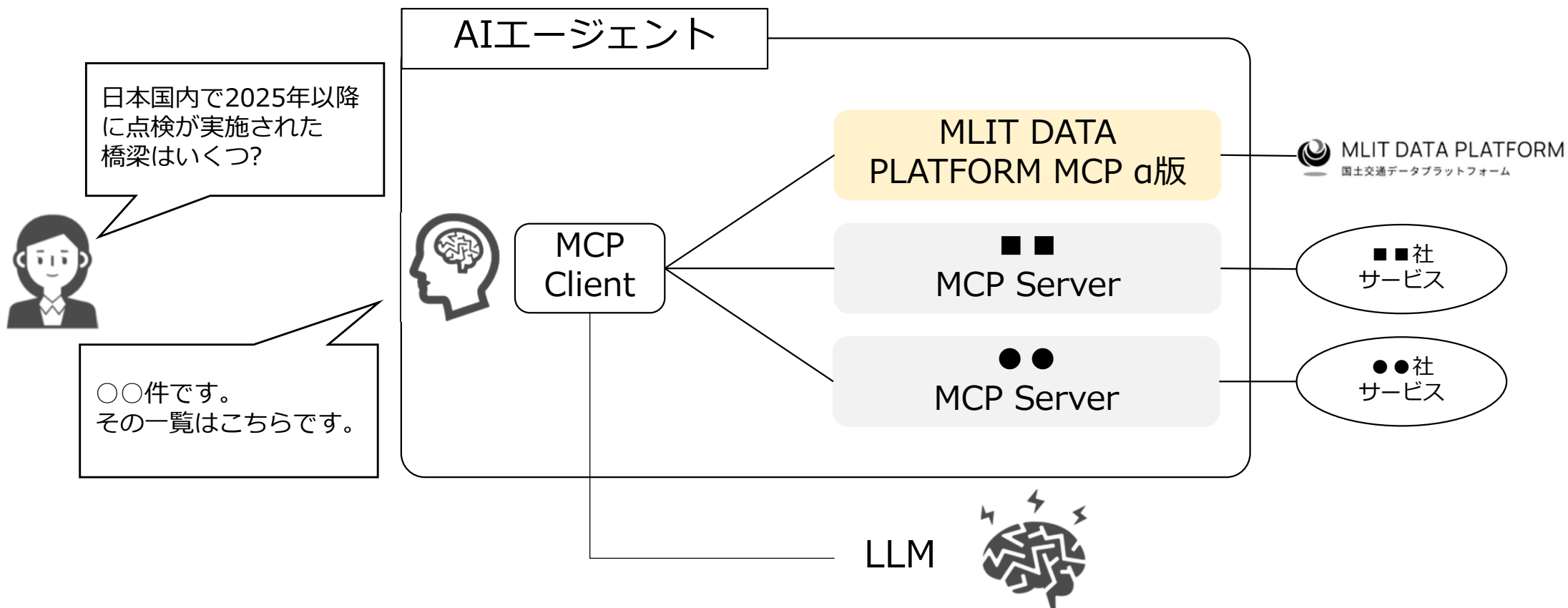
※発信内容は公募参加者と協議の上決定する



タイプB(データ利用者) AI技術を活用する場合

AI技術活用の際は「MLIT DATA PLATFORM MCP Server」も積極的に活用！

- 国土交通DPFが提供するMCPサーバを利用し、AIEージェント開発を実施する
- 国土交通DPFのMCPサーバ単独での利用に加え、他のMCPサーバやLLMと組み合わせて利用することも可能



タイプC(インフラAI共創パートナー) 概要

インフラAI共創パートナー

目的：

インフラ分野でのAI利活用を推進するため、AI学習用データの整備やAIアプリケーション開発等の社会的価値創出に関心のあるコミュニティを組成し、エコシステム構築実現に向けた議論・実証

参加条件：

インフラ整備・管理に関連するデータを有し、保有データの特性等を参加者間で情報共有すること
データをAI技術により活用する知識・経験および環境を保有すること 等

実施内容：

インフラ整備・管理に関連するデータを相互に共有・AI活用が行える枠組みや開発環境等について検討
(協調領域と競争領域の整理含む)

データの取り扱い：

協調領域に該当すると整理されたデータまたはそのメタデータは、国土交通DPFに掲載する



(※This image was created with generative AI)

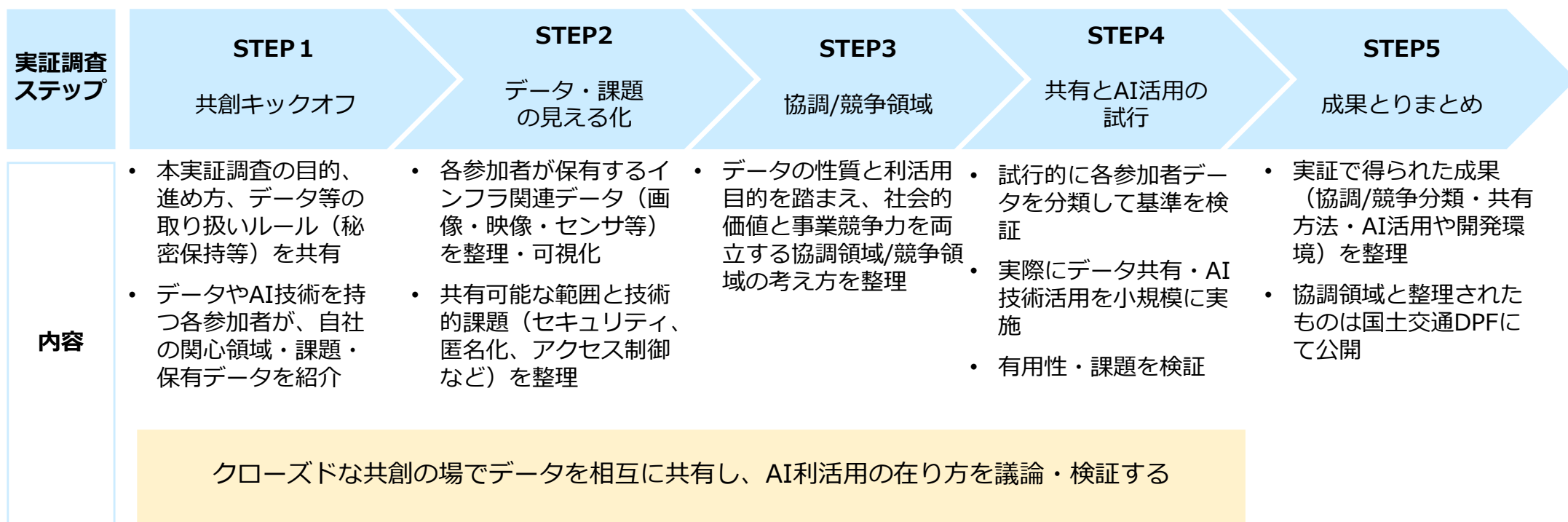
※詳細は公募要領を参照すること

Copyright © MLIT Japan. All rights reserved.

タイプC(インフラAI共創パートナー) 実証調査の進め方

インフラAI共創パートナーの実証調査の進め方（案）

- ・ インフラ分野のAI利活用を議論・共創するコミュニティを形成
- ・ クローズドな環境でデータを共有し、協調領域／競争領域の考え方やAI活用に必要な開発環境等を共に検討する



※進め方の案であり、参加者の意見や実証状況に応じて柔軟に変更・調整する場合がある

今後掲載予定のデータ等の一覧

今後掲載予定のデータ等の一覧

SIPの取り組みから提供するデータ・アプリケーション

- SIPの取り組みから以下のデータやアプリケーションを提供予定
- うち一部のデータやアプリケーションは、2026年度内に提供を予定

※2025年10月現在の予定です。予定は変更となる可能性があります

データ・アプリケーション	提供形態	提供者名	関連するSIP課題
洪水浸水確率ハザードマップ生成アプリ	• WEBアプリでの利用が可能 • 2026年度：兵庫県内の武庫川・加古川の事例を提供予定	神戸大学 大石 哲 教授	SIP スマート防災ネットワークの構築 サブ課題E 防災デジタルツインの構築
疲労・劣化解析デジタルツイン	• Webアプリ上での利用が可能（パラメータ設定等は打合せで調整） • 算定データセットの利用が可能 • 2026年度：全国の国道橋梁（XROADに詳細データがある橋梁）を対象	東京大学 高橋 佑弥 准教授	SIP スマートインフラマネジメントシステムの構築 サブ課題D サイバー・フィジカル空間を融合するインフラデータベースの共通基盤の構築と活用
インフラ構造物の点検情報管理システム「InfraWalk」	• Webアプリ上での利用が可能（機能提供範囲については技術面および知財面での打ち合わせの上検討） • 2026年度：国土交通DPFへの掲載許可が取れた自治体（数自治体で合計数十の橋梁）を対象とする予定	東京大学 全 邦釘 特任教授	SIP スマートインフラマネジメントシステムの構築 サブ課題D サイバー・フィジカル空間を融合するインフラデータベースの共通基盤の構築と活用
空間経済分析の実践基盤の確立	• csv形式のシミュレーション結果が利用可能 • 2026年度：札幌都市圏（大字単位）・全国（都市圏単位）を対象に提供予定	東京科学大学 高山 雄貴 教授 高知工科大学 杉浦 聡志 教授	SIP スマートインフラマネジメントシステムの構築 サブ課題D サイバー・フィジカル空間を融合するインフラデータベースの共通基盤の構築と活用

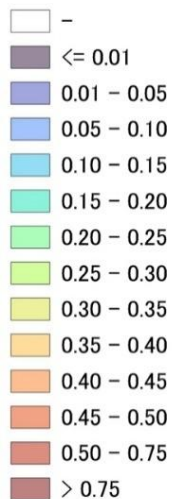
【参考】：国土交通省が 2026年3月 新規連携・拡充開始予定のデータ

- 新規連携：仙台都市圏パーソントリップ調査、OD交通量データ、歩行空間ネットワークデータなど
- 連携拡充：
 - ・ 国土数値情報（中学校区、小学校区、土砂災害警戒区域、駅別乗降者数、地価公示、都道府県地価調査、高速道路時系列、緊急輸送道路、鉄道、鉄道時系列、大規模盛土造成地、砂防指定地、高速バス停留所、土地利用3次メッシュ）
 - ・ 電子納品保管管理システム（J-Landxml）

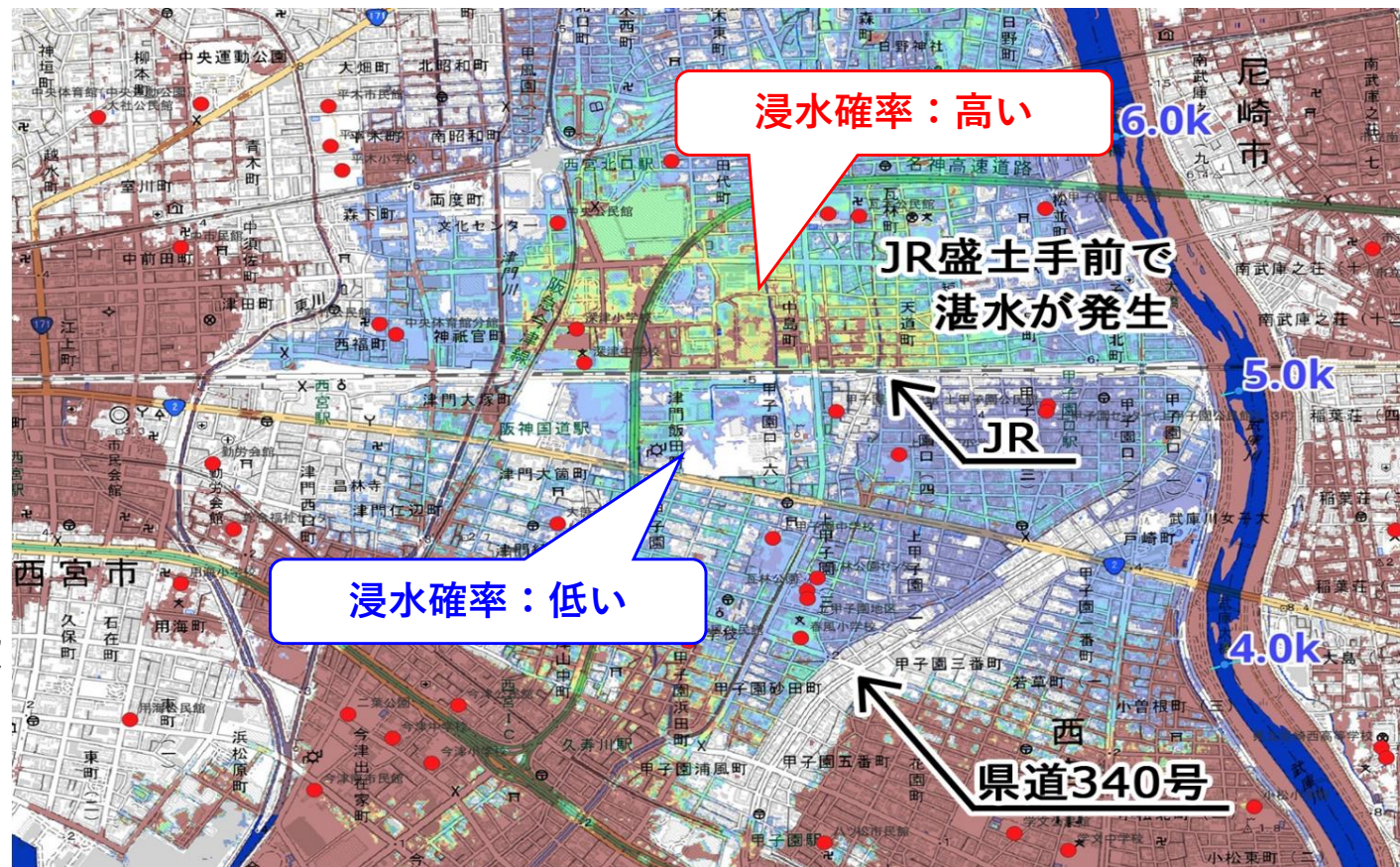
SIPの取り組みから提供するデータ・アプリケーション

洪水浸水確率ハザードマップ生成アプリ

項目	内容
概要	国土地理院情報、国土交通データプラットフォーム、川の防災情報などから流域モデルを自動生成して、様々なシナリオで洪水浸水計算を行い、浸水確率を表現する次世代型ハザードマップを生成するアプリ
提供形態	Webアプリ上での利用
2026年度の提供形態	兵庫県内の武庫川と加古川の事例を提供予定

浸水確率
(0.5m以上)

● 避難施設



(アプリケーションのイメージ)

RC床版の疲労/土砂化劣化速度算定アプリ/データ

[illegible]

(Webアプリ試行版のイメージ)

インフラ構造物の点検情報管理システム「InfraWalk」

The image shows a VR application for bridge inspection. The background is a 3D model of a bridge structure, with a yellow rectangular box highlighting a specific area on the underside of a concrete beam. Overlaid on the top left is a 2D point cloud visualization of the same area, with red and blue dots representing different data points. A green circle highlights a specific point in the point cloud. On the top right, there is a control panel with buttons for '全て表示' (Show All), '上部構造' (Superstructure), '下部構造' (Substructure), '上下間値' (0.35), '適用' (Apply), and '地図変更' (Change Map). Below this panel is a dropdown menu for '状態・損傷選択' (Status/Damage Selection) with the text '-- 選択してください --' (Please select). Below that is a dropdown menu for '資料' (Data) with the text '-- 選択してください --' (Please select) and a 'GO' button. On the bottom left, there is a 'データ出力' (Data Output) button and a '資料アップロード' (Data Upload) button. In the center, there is a search and edit panel with a '検索可' (Searchable) checkbox, a '編集モード' (Edit Mode) toggle switch, and text indicating the current selection: '位置・部材等: 主桁' (Position/Member: Main Girder), '状態・損傷等: 鉄筋露出 b' (Status/Damage: Reinforcement Exposure b). Below this is a '詳細情報' (Detailed Information) section with a text input field and a '閉じる' (Close) button. At the bottom left, there is a 'Language: 日本語' (Language: Japanese) dropdown menu. At the bottom right, there is a date and time stamp: '2024年11月3日撮影' (Shot on November 3, 2024).

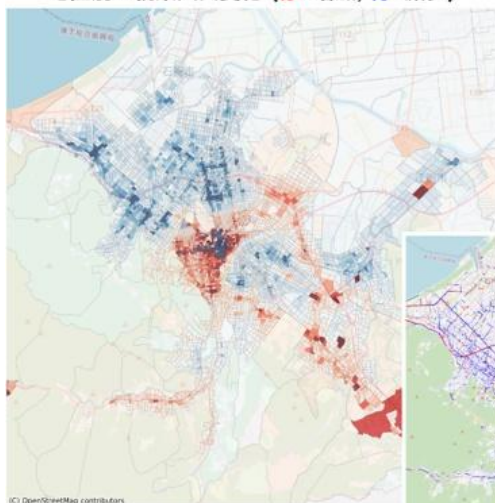
Copyright © MLIT Japan. All rights reserved.

SIPの取り組みから提供するデータ・アプリケーション

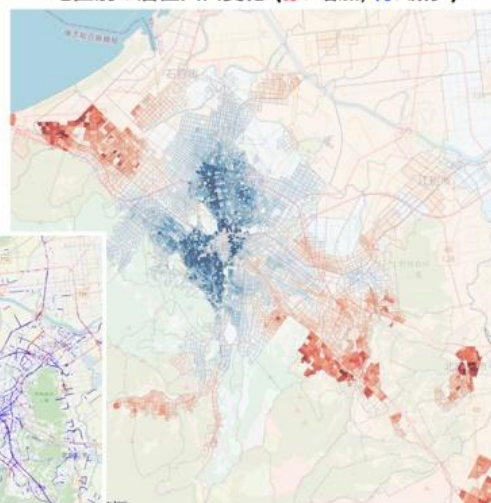
空間経済分析の実践基盤の確立

項目	内容
概要	国土数値情報や道路交通センサスの情報を活用して、都市・交通シミュレーションを実施して得られた交通改善の影響評価結果
提供形態	csv形式のシミュレーション結果
2026年度の提供形態	札幌都市圏（大字単位）・全国（都市圏単位）

地区別の就業人口変化 (赤: 増加, 青: 減少)



地区別の居住人口変化 (赤: 増加, 青: 減少)

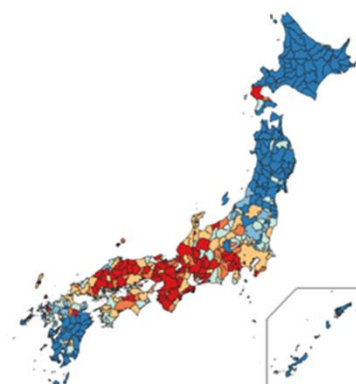


交通量の変化 (赤: 増加, 青: 減少)



(交通改善の影響評価：札幌都市圏の分析事例)

高速道路の輸送効率改善による人口変化
(赤: 増加, 青: 減少)



鉄道・航空の輸送効率改善による人口変化
(赤: 増加, 青: 減少)



(交通改善の影響評価：日本全国の分析事例)